

Ⅲ 拠点校の取組 研究開発実施報告（詳細）

〔1〕研究開発単位Ⅰ「未来航路（詳細）」

（1）「未来航路」で育む6つの資質・能力・心構え

6つの資質・能力	主な資質・能力の内容
幅広く深い教養	グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある。
課題発見・解決能力	グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考え、発信することができる。
新たな価値を創造する力	既存の価値を融合し、自由な発想で新しい価値軸を創ることができる。
主体的に行動する力	目標に向かって自主的に考え、自律的に判断し、決断したことは積極的かつ誠実に実行し続けることができる。
他者と協働する力	自己を理解し自立した人間として、他者と共に心を通じ合わせてよりよい社会の実現を目指そうとすることができる。
自他を尊重する心	社会における自己を認識し、自他の存在意義を認めることができる。

（2）1年生（課題研究基礎・課題研究）の取組

1年生は前期に「課題研究リテラシー」、後期に「グループ課題研究」を行った。概要は次のとおりである。

〔前期〕課題研究リテラシー

- ・課題を解決するためのデータの収集や分析方法（データサイエンス）やICTの学習を行う。
- ・「グローバル会社の起業」をテーマにした課題研究を行い、課題研究の基礎力の育成と基礎知識の学習を行う。

〔後期〕グループ課題研究

- ・5人程度のグループをつくり、課題研究をSDGsの17の目標を“Life” “Welfare” “Environment”の3分野に分け、SDGs「目標3 すべての人に健康と福祉を」と関連づけて行う。課題発見・解決能力、他者と協働する力、自他を尊重する心等を育成する。
- ・研究を行う際は、社会学・人間科学・法学・地理学・歴史学・国際関係学・工学等、多面的・文理融合的に考える。また、できるだけ身近なデータを実験や観察等から収集し、身近でないものは統計データ等を用いる。

○具体的な活動内容

4月 校内研修

就実大学経営学部教授 林 俊克 氏による講演会をオンラインで実施した。内容は、国際社会において求められる人材像についてであった。その後、「仲間づくり」と「グローバル」をテーマにクラス討議を行い、クラス目標を考えさせた。昨年度、各クラス目標は模造紙にまとめて発表を行ったが、今年度はGoogle ChromebookのJamboardを用いてオンラ

インで発表を行った。ICT 機器を活用した効果的なプレゼンテーションの手法と Chromebook の活用に対する理解を深めた。

6月 グローバル講演会

講師：株式会社 力の源ホールディングス 取締役 Asia 事業本部長 矢野亮太 氏

「グローバルな視点を持つこと」と「グローバルな社会課題を知ること」の大切さについての講演であった。講演後は Chromebook のドキュメントを用いて、各自で振り返りを行った。

・生徒の感想より

今回の講演で、自分の未来、将来は自分が決めるが、あまり気負いすることなく、未来をおおらかに捉えて目の前にあることを丁寧に取り組んでいくことが大切だとわかった。講師の方の人生は決して平坦な道ではなかったと思ったが、結局自分自身のストロングポイント「尖り」を前面に出していったから世界で活躍できる人材になれたのだと思う。

私は必ずしも世界で活躍することだけが目指す将来の姿だとは思っていなかった。しかし、講師の方の生き生きとした口調や表情から、世界に出ることで、大変ではあるが大きな発見があり、自分の視野が広がっていくのだと思った。また、ここ数年のコロナ禍で、社会での価値は物質主義から体験主義に変わるなか、いちばん大切なのは常に自分が成長し続けることだと思った。一風堂の企業理念にもあったように、「変わらないために変わり続ける」ことをどんな状況でも、自分から行っていかなくてはならない。自分が将来活躍できるかできないかの要素に運もあるとおっしゃられていたが、その運さえも自分の能力によってたぐり寄せられるのではないかと思った。よって、まず自分が一番先にすべきは自分の「とがり」を見つけることだ。自分の未来を常に見据えて生きたい。

今日の講演で私はおおきく2つのことを学びました。

1つ目はグローバル人材とはということです。前に一度自分自身で考える機会がありました。私はその時積極性を持っていればいいと思っていました。しかし大切なのは常識を定めないことでした。私達はそれぞれに常識だと思っていることがあります。しかし家族や友達同士でも意見が合わないことがあるのだから、世界を単位としてみれば異なるのは当然です。そこでどれだけ受け入れる力を持っているのか、適応していく力があるのか。本当に大切なことはここにあると思いました。

2つ目は今を生きるということです。高校生になって中学生の時より未来について考えることが増えました。もちろん先を見据えた行動はいいことです。しかしその分今を楽しむことができなくなっていいのでしょうか。初めの方はなんとかやって行けてものちに必ず心が壊れてしまいます。予測不可能な未来に囚われすぎて今を楽しめないのは少し勿体ない気がします。高校生になって環境が変わった私にとって本当に学びの多い講演会でした。

6～7月 課題研究基礎「ラーメンで世界進出」

ラーメン会社を起業し世界進出していく社長に対して、学問系統分野の視点から海外進出プランを提案するという活動を行った。学問系統分野は①人文学系統、②法・経済学系統、③教育学系統、④理学系統、⑤工学系統、⑥農・水産学系統、⑦医療・生活系統、⑧芸術（デザイン）系統の8系統とした。各系統分野で研究する内容を大学のホームページ等で調べたのち、ビジネスプランをグループで話し合い、Chromebook のスライド機能を用いてクラス発表を行った。

「ラーメンで世界進出」

【課題】

富田さんはこれからラーメン会社を起業し、社長として日本だけでなく世界へ進出することを考えています。そのためには多くの人が必要です。また、さまざまな国でビジネスを展開するには、それぞれの国の文化に対応しながら拡大を目指す必要があります。

富田さんは社長として、各分野の人に様々な仕事を依頼したいのですが、具体的に何をどのように依頼すればよいのか困っています。

さて、あなたは以下の各系統分野の専門家です。あなたの系統分野の視点から、ラーメン会社の海外進出プランを富田社長に示してください。

なお、富田社長が考えた世界進出プランは、次のとおりです。

- ・日本だけでなく世界へ進出する
- ・自社工場で生産する
- ・社員の健康のため労働環境を整える
- ・宣伝により利益を上げる
- ・海外では現地の人を雇用する
- ・優秀な社員を育てる
- ・安心安全でおいしいラーメンを提供する。
- ・ネット通販で冷凍ラーメンを販売する

【研究方法】

自分の属する系統分野（担任から発表）の学問研究内容を調べたのち、グループのメンバーと協力して、その系統分野の視点をもとに考えられる海外進出プランを提示する。なお、専門系統分野は以下の8系統である。

- ①人文学系統 ②法・経済系統 ③教育系統 ④理学系統
⑤工学系統 ⑥農・水産系統 ⑦医療・生活系統 ⑧芸術（含デザイン）系統

【備考】

・まずは、系統分野の学問研究内容をよく調べること。同じ名称の学部・学科であっても研究内容は異なるため、複数の大学を調べること。

・プランを提示する際は、『おかやま SDGs マップ』（web で閲覧可能）で実際の企業の取り組み事例を参考にすることも可能である。

【日程と概要】

月日	内容	準備物等
6/8（火）	課題研究基礎①ガイダンス ・各 HR ・事前課題（個人活動）	・ Chromebook
6/9（水） 6・7限	グローバル講演会（Meet で行う） ・各 HR 課題研究基礎② ・講演感想文	・ Chromebook
6/14（月）	課題研究基礎③中間発表準備	・ Chromebook

	<ul style="list-style-type: none"> ・各 HR ・中間発表に向けてグループ協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献および資料
6/16 (水)	課題研究基礎④中間発表準備 <ul style="list-style-type: none"> ・各 HR ・中間発表に向けてスライド(1枚)と原稿の完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook ・参考文献および資料
6/21 (月)	課題研究基礎⑤中間発表 <ul style="list-style-type: none"> ・系統分野別に指定された教室へ集合。 ・1班5分で発表と質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook ・参考文献および資料 ・発表原稿
6/22 (火)	課題研究基礎⑥クラス発表準備 <ul style="list-style-type: none"> ・各 HR ・クラス発表に受けてスライド(1枚)と原稿の再考 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook ・参考文献および資料
7/7 (水) 3限	課題研究基礎⑦クラス発表準備 <ul style="list-style-type: none"> ・各 HR ・クラス発表に受けてスライドと原稿の完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook ・参考文献および資料
7/14 (水)	課題研究基礎⑧クラス発表 <ul style="list-style-type: none"> ・各 HR ・1班5分で発表・質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebook ・参考文献および資料 ・発表原稿

【その他】

書籍やインターネットを利用して調べ、Chromebook にまとめておくこと。出典も記載しておく。また、信用できるサイトを閲覧すること。『学部学科がわかる本』や『逆引き大学辞典』も参考にするとよい。

8月 グローバル講演会

ノートルダム清心女子大学 文学部現代社会学科 教授 森 泰三 氏

「課題研究の方法と実践」と題し、課題研究の意義、グループ研究の良さ、課題発見の重要性とその観点、資料やデータの集め方と研究の構成等、課題研究を進めるにあたってのポイントをわかりやすく説明された。

9月 課題研究準備

講演の振り返りとともに、今後の課題研究についてガイダンスを行った。その後、Chromebook のフォーム用いて「気になる課題」と SDGs の関連番号のアンケートを取り、グループングを行った。

未来航路 課題研究について（ガイダンス資料）

1. はじめに

1年2学期からは、持続可能な開発目標（SDGs）を柱とした課題研究が始まります。SDGs（Sustainable Development Goals の略称）とは、2015年の国連サミットで採択されたもので、国連加盟国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。持続可能な世界を実現するための17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さない（leave no one behind）持続可能な社会を実現するための目標と定められています。日本も企業や大学、地方自治体等がSDGsを達成するために様々な取組を行っています。2年生の課題研究では以下の2にもあるように、社会課題について知り、世の中に主体的に関わる意識を養成することを目標にしているため、SDGsを柱として大学・企業等と連携を進めながら課題についてより深く向き合うことを期待しています。

2. 課題研究を通しての目標

右図のように、「世界や社会の諸問題を知り、考える」ことが大切です。世の中はどうなっているのか、自分はどのように関わることが出来るのかを課題研究を通して学んでいきましょう。

そして、グローバルな課題を理解できる幅広く深い教養、グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考えることができる課題解決能力、既存の価値を融合し、自由な発想で新しい価値軸を創ることができる新たな価値を創造する力、自主的に考え判断し、積極的に実行し続けるコミュニケーション能力、他者と共に心を通じ合わせてよりよい社会の実現を目指すことができる他者と協働する力、自他の存在意義を認めることができる自他を尊重する心の6つの資質・能力を養うことにより、自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーを目指しましょう。



3. 領域とSDGsについて

「Life」領域・・・①貧困 ②飢餓 ③保健 ④教育 ⑤ジェンダー ⑥水・衛生

「Welfare」領域・・・⑦エネルギー ⑧経済成長と雇用 ⑨インフラ・産業化・イノベーション
⑩不平等 ⑪持続可能な都市 ⑫持続可能な消費と生産 ⑬平和

「Environment」領域・・・⑭気候変動 ⑮海洋資源 ⑯陸上資源

4. 活動予定

9/15（水）～10/25（月）課題研究の意義とグルーピング

・研究の意義を理解し、SDGsに対する基礎知識を習得する。身の回りの「気になる課題」とSDGsとの関連性を把握し、自分事とする。グループを決定する。

11/1（月）～11/22（月）テーマ決定のための準備

・班で自分たちの「気になる課題」とSDGsの番号が合致していることを確認しながら「気になる課題」に関する現状把握と課題発見をしていく中で、研究テーマについて道筋を立てていく。

12月 大学の先生からテーマ設定に関する指導助言

1月 テーマの再考

2月 テーマ決定，研究計画書完成

3月 課題研究発表会（2年生による発表）

※課題研究はグループで1つのテーマについて1年間かけて研究します。



10月～12月 課題研究開始

グルーピングが決定したのち、研究テーマについて班で話し合い活動を行った。Chromebookを活用し、ドキュメントを班員で共有し合ったり、Jamboardを用いてお互いの意見を交換し合ったりした。テーマ設定に関しては、以下の項目に留意するよう指示した。

- ・テーマが課題解決に向けて検証可能かどうか、解決方法がイメージできるのか。
- ・身近なテーマに落とし込むことができているかどうか。
- ・「自分ごと」として考えられているかどうか。
- ・班の中で自分ができること、すべきことについて考えられているかどうか。

また、班で話し合ったテーマ案について、12月中旬に大学教授から丁寧な指導助言をいただいた。その助言をもとに、その後はテーマを再考する活動を行った。

1～3月 研究計画書の作成

班で決定したテーマについて詳細な研究計画書を作成した。3月中旬には2年生の課題研究発表会を見学し、自分たちが行う課題研究のイメージを明確にする予定である。また3月17日に、春日井製菓販売株式会社 原 智彦 氏によるグローバル講演会を行う予定である。

(3) 2年生（課題研究・ディスカッション）の取組

①概要

SDGs17の目標を「Life 領域」「Welfare 領域」「Environment 領域」の3領域に分け、昨年度編成したグループで研究を進めた。各分野に岡山大学、岡山県立大学、環太平洋大学、ノートルダム清心女子大学から大学教授等の研究者をアドバイザー・スタッフとして2年生に対して年間2回（5月、7月）招き、課題研究のサポートを依頼した。今年度は、コロナ感染予防のため、5月はすべてがオンライン、7月については岡山大学のアドバイザー・スタッフとはオンラインで実施した。1月26日に予定していた「課題研究発表会」についても、コロナ感染拡大により3月に延期されることとなり、年間通じてコロナの状況によって計画を変更せざるを得なかった。

②課題研究の経過

○4月9日「ゼミ顔合わせ」

新しいゼミ担当教員に研究内容について説明し、春休みの研究の進捗状況を共有し、研究計画書の見直しを行った。

○4月14日～5月12日「研究実践」・「中間発表会準備」

14日から研究計画書に基づき研究を再開し、並行して担当教員と研究計画書について面談を実施し、研究の方法や参考文献等の資料収集、外部連携等の活動について検討した。また、5月26日実施の「中間発表会」の準備として、①課題設定の理由、②課題解決の手段・方法、③現在までの取組状況や成果・課題、④今後の取組予定、⑤結論の方向性等を柱に発表用のGoogle スライドを作成した。

○5月26日「中間発表会」

中間発表会を行い、アドバイザー・スタッフの大学の先生から指導助言をいただいた。コロナ感染予防のため、すべてオンラインでの実施となった。事前に研究計画書とGoogle スライドを担当の大学の先生に送り、Google meet または ZOOM アプリを使用し、指導助言をいただいた。事前に資料を送っていたので、各分野で研究の手法や重要性という観点から、ポイントを絞ったアドバイスや、研究に行き詰っているグループに対しては、新たな視点を与えていただき研究の方向性を修正したり、研究内容に応じて専門家や専門機関を紹介したりしていただき研究をさらに深める良い契機となった。また、発表を聞いている他班の生徒からもフィードバック・シートを利用し、発表会後に意見交換できるようにした。

○6月2日「中間発表会の振り返り」

中間発表会での指導をもとに研究計画や今後の取組を再検討し、Google ドキュメントにまとめた。これから取り組むべき課題を明確にし、班内で今後の研究の役割分担を行い、研究計画書の調整を行った。

○6月9～30日「研究実践」

6月2日に再検討した今後の方向性をもとに研究を進めた。本来ならば、6月15～19日が修学旅行であったため、6月9日は修学旅行準備、6月16日は修学旅行の予定であったが、コロナ禍で延期となったため、研究を継続することとなった。

○7月14日「夏休みの取り組みについて」

①中間発表で指導を受けた後の研究の方向性や課題、②研究の進捗状況、③長期休業中の自分たちの取組、④先生への質問等を発表用のGoogleスライドにまとめて発表した。これまでの研究実践内容と今後の計画について、アドバイザー・スタッフの大学の先生から指導助言をいただいた。今後の活動についての質問や、相談したいことをしっかり考えておくことで、情報を入手し、研究を深化させる機会となった。大学の先生によっては、今後の論文の書き方を指導してくださり、「序論→本論→結論」の流れを生徒に説明させることで、研究が足りていない部分を的確に指導してくださった。

○9月15～10月20日「研究実践」「論文作成」「領域別発表会準備」

7月14日「夏休みの取り組みについて」大学の先生からいただいたアドバイスをもとに再検討した。それをもとに研究を進め、研究のまとめをした。また、研究と同時進行で論文作成の取り組みを行った。論文については、第1回目の提出日を10月27日にGoogleドキュメントでの提出とし、担当の教員が添削をして推敲させていき、最終提出日を1月31日とした。

○10月27日「領域別発表会」

「Life領域」「Welfare領域」「Environment領域」の3領域に分け、さらに9グループに分け、領域別発表会を行った。発表は7分以内とし、Googleスライドを用いて全員が発表することとした。発表の構成として、①【序論】課題設定の理由 ②【本論】課題解決の手段、方法、結果 ③【結論】成果と課題、この3点を入れてまとめることとした。「全体発表会」の代表班の選出については、「領域別発表会」で相互評価した点数をもとLife領域から3班、Welfare領域から3班、Environment領域から2班、SOZAN国際塾から1班を選出し、1月の全体での「課題研究発表会」における代表班とすることとした。

(概要)

領域	発表班（目標番号・班番号）	班数	生徒数	使用教室
Life	①貧困、②飢餓、⑥水・衛生	7班	30	2-4
	③保健	9班	39	百周年
	④教育1-4班、⑤1-2班	6班	26	2-1
	④教育5-8班、⑤3-4班	6班	26	2-2
Welfare	⑦エネルギー、⑨インフラ	6班	27	2-5
	⑧経済成長と雇用、⑪持続可能な都市	9班	39	2-3
	⑩不平等、⑫持続可能な消費、⑬平和	8班	30	2セミ
Life	⑬気候変動、⑮陸上資源	6班	27	2-6
	⑭海洋資源	6班	26	2-7
国際塾	国際塾	4班	11	視聴覚

代表決めに用いる際の相互評価の項目については、以下の通りである。

各観点で5点満点（合計25点）※基準は3点とする。

- ・研究内容は、各教科等で修得した知識をもとに現代社会の状況を的確に捉えるものになっているか。
- ・研究内容は、課題意識の所在が明確であり、データの分析等をもとに論理的に結論を導くものになっているか。
- ・発表方法は、聴衆にとって理解しやすいように工夫されているか。
- ・研究内容は、現代社会の諸問題の解決に寄与する可能性を有しているか。
- ・研究内容は、それぞれの班のSDGsの目標番号に対して、貢献するものになっているか。

○12月20日～1月19日「課題研究発表会準備」「論文推敲」

1月26日の全体での「課題研究発表会」は、領域別発表会で代表に決定した班がステージ発表、他の班はポスターセッションの準備を行った。ポスターはGoogleスライドで作成し、1月19日は印刷されたポスターを実際に使用し、発表練習を行うことができた。

○1月26日「課題研究発表会」

午前が本校教室等でポスターセッション、午後は第1体育館で代表班による全体発表を、WWL連携校を招いて行う予定とした。午前のポスターセッションでは、本校54班、国際塾2年生3班、国際塾1年生8班、WWL連携校1班の計66班が、発表時間7分・質疑応答5分を設け、3回発表を繰り返すこととした。午後の全体発表では、代表班8班、国際塾2年生1班、WWL連携校1班の計10班がGoogleスライドを用いて発表時間8分・質疑応答5分を設け発表することとした。ただし、1月に全国でコロナ感染が拡大し、「課題研究発表会」は延期を決定した。延期は、コロナ感染が落ち着くと考えられる3月とした。概要は以下の通りである。

令和3年度 未来航路 2年生 課題研究発表会実施要項

- 1 日 時 令和4年3月17日(木) 8:40～11:41
3月18日(金) 8:40～10:34
- 2 会 場 本校第1体育館・各教室(1・2・3年HR, 1～3セミ, 第1地歴, 視聴覚, 大・小会議, 補習科教室, 通信第1・2講義, 百周年)
- 3 参加者 高校1, 2年生 中学1, 2年生, WWL連携校(岡山城東, 岡山一宮)
- 4 日程
- 3月17日(木)
- 8:40～8:50 開会行事(校長挨拶, 他校紹介, 諸連絡) (第1体育館集合)
- 8:50～8:55 発表者準備
- 8:55～9:47 全体発表①(発表8分+質疑応答5分) 4班
- 9:47～10:05 休憩
- 10:05～10:57 全体発表②(発表8分+質疑応答5分) 4班
- 10:57～11:10 休憩
- 11:10～11:36 全体発表③(発表8分+質疑応答5分) 2班(国際塾, 他校1校予定)
- 11:36～11:41 諸連絡

※13:00～ グローバル講演会

3月18日(金)

8:40～8:50 他校紹介, 諸連絡(各HR教室meet)

8:50～9:00 発表者準備

9:00～9:14 ポスターセッション発表前半①(発表7分+質疑応答4分+移動3分)

9:14～9:28 ポスターセッション発表前半②(発表7分+質疑応答4分+移動3分)

9:28～9:42 ポスターセッション発表前半③(発表7分+質疑応答4分+移動3分)

9:42～9:52 休憩並びに後半準備

9:52～10:06 ポスターセッション発表後半①(発表7分+質疑応答4分+移動3分)

10:06～10:20 ポスターセッション発表後半②(発表7分+質疑応答4分+移動3分)

10:20～10:34 ポスターセッション発表後半③(発表7分+質疑応答4分+移動3分)

※終業式後, 高校のみ閉会行事(成績発表, 副校長講評)

5 全体発表

(1) 発表班

発表順	領域	班長	タイトル
1	SDGs④	真部	「杜撰殻を充填剤にして形成したFRPの物性の評価」
2	SDGs⑫	久野	「江戸時代に学ぶ持続可能な消費と生産」
3	SDGs⑩	金尾	「Unityを用いた機械学習によるフィードバックAIの制作」
4	SDGs⑩	天野	「新しい道の駅のあり方～やがけ宿を例にして～」
5	SDGs②	鈴木	「ブルキナファソの昆虫食導入の可能性」
6	SDGs④	浅野	「幼児受け入れ態勢による岡山市の待機児童についての考察」
7	SDGs③	藤本	「医療格差の現状と評価」
8	SDGs③	佐藤	「水耕栽培による根菜の育成」
9	WWL連携校		
10	国際塾	古賀	「体感温度と電力消費量の関係性」

③ディスカッション（パブリック・コメント）

課題研究で学んできた SDGs の視点や知識を社会に活かす手立てとして、パブリック・コメントを活用することとした。パブリック・コメントとは、計画や条例等を決定する前に、目的や内容等をあらかじめ公表して、広く市民から意見を募集し、その意見を考慮したうえで最終的な意思決定を行う制度である。このパブリック・コメントを作成することで、課題研究で各自が得た幅広い知識や、社会課題を解決する手立てを活かして、より良い社会の実現を目指した。

○11月10日

10月27日に課題研究の論文提出が終わり、課題研究の意義について Google meet を用いて振り返りを行った。課題研究を通じて、社会課題に対して自分がどのように関わることが出来るのかを学ぶことで、目標とする6つの資質・能力を身につけ、社会で活躍できる人材の育成を目指してきたことを確認した。そして、課題研究での学びをアウトプットし、より良い社会の実現を目指すために、今後の未来航路ではパブリック・コメントを作成することを伝えた。

○11月24日 「講演会1」

パブリック・コメントについて、パブリック・コメントを広く知ってもらう活動を行っている鷲見香織氏による講演会を実施した。

グローバル講演会 実施要項

1 目的

- ・行政の基本的な政策や制度を定める条例に対して、課題研究で身に付けた SDGs の視点をもって検討することで、より良い社会の実現を目指す生徒を育成する。
- ・パブリック・コメントについて理解する。

2 講師 ヨノナカ実習室 鷲見 香織 氏

3 題目 「はじめてのパブリック・コメント」

4 日時 令和3年11月24日（水）15：15～16：05

5 会場 第1体育館

（講演会の内容）

- ・より良い社会が実現している状態を「良い」と判断できる感覚をパブリック・コメント作成という対話の中で身に付けること
- ・日本で達成できていない SDGs を知り、パブリック・コメントを通じて岡山で決定されつつある今の方向性を知ること
- ・パブリック・コメントのポテンシャルとして、パブリック・コメントは投票ではないので少数派の立場から活用できる貴重な社会参加の機会となること、多様な視点からのアイデアを大切にすること
- ・札幌市のパートナーシップ制度には多数の否定的な意見があったからこそ導入が決定される事例から、偏見がある中での暮らしを想像してみることの大切さ
- ・パブリック・コメントで出された意見は行政で活用されていること

（生徒の感想抜粋）

・課題研究で自分なりに学んだことは、深く知りたい時にはどう調べていけばいいのかということだと思っていたので、方位を知るため、良い社会を実現している状態を「良い」と判断できるための羅針盤を手に入れることをしていたと言われてドキッとした。特権の認知することが羅針盤をうまく活用できるようになるために必要なものという話は日常生活で責任を感じるのは大変だけど、より良い社会の実現には大切だと思わされた。

・私たちはまだ選挙権を持っていなくて、行政に対して自分の意見を持っていてもどのように発信すればいいかわからなかったし、特に若者は選挙に行っても無駄じゃないかと思う人も多くいると思うので、パブコメで実際に高校生の意見が行政に反映されていると知って、私たちにも、将来の日本を良くすることができると感じた。

・「現在、日本でSDGsで不十分な項目は？」と聞かれてすぐに答えられませんでした。ここで、自分が経験した狭い範囲についてしか考えておらず、広い目を持っていなかったことに気付きました。「自分の発言に責任を持つ」そのためには、そもそも発言することができるだけの知識を身に付けていかなければならないと思いました。

○12月8日 「講演会2」

パブリック・コメントを行政側の視点から理解するため、岡山市のパブリック・コメントを担当する広報公聴課の方を招き、講演会を実施した。内容として、パブリック・コメントの手続きの流れや、素案に対して岡山市はどのように回答しているかについて、例に挙げて説明していただいた。その中で、素案の目的や制度を理解することの大切さについて教えていただいた。また、パブリック・コメントは、選挙以外で市民が政治参加する良い機会だというお話をいただき、参政権がない生徒でも積極的に社会とかわるることができることを学び、パブリック・コメントに対する理解を深めることができた。また、講演会の最後に生徒からの質問に答えていただいた。パブリック・コメントに関心をもった生徒が、「プレパブコメ」と題して岡山市パートナーシップ制度の素案を読み、岡山市の担当課の方に、意見に対する回答をいただくこともできた。

グローバル講演会

1 目的

- ・行政の基本的な政策や制度を定める条例に対して、課題研究で身に付けたSDGsの視点をもって検討することで、より良い社会の実現を目指す生徒を育成する。
- ・パブリック・コメントについて理解する。

2 講師 岡山市役所 広報公聴課 課長補佐 中野 雅幸 氏，主事 入江 萌美 氏

3 題目 「岡山市役所で実施したパブリック・コメントについて」

4 日時 令和3年12月8日（水）15：15～16：05

5 会場 第1体育館

（生徒の感想抜粋）

・講演会では、実際に出された意見と岡山市のやりとりが紹介されましたが、反対意見も修正意見もどんな意見にもしっかり対応し、より良い制度を作り出そうとしているのだと知り、これに参加する私たち市民も同じ熱量で自分たちの住む地域について考え、暮らしが良くなるように積極的・主体的に動かなければならないということを感じました。

・パブリック・コメントの目的の中に、「政治の透明化」があり、とても良い点だと感じた。パブリック・コメントの場合、意見を募集する際に原案等を一般に公開しなければいけないので、コメントを送るかどうかの前に誰でも政治の状況を見ることができる。政治の可視化に大きく貢献していると感じた。

・パブリック・コメントをする上では、公表された制度の目的を理解することが重要で、目的に対する自分の考えとその理由を明確にし、意見をまとめるというステップが必要だとわかった。まず、その制度について正しい知識を持って、その上で自分の考えを提出しなければならないので、簡単だと思っていたが少し大変だと感じた。

○12月15日「パブリック・コメントを作成する視点」

素案を読むにあたって大切な視点についての講義を、未来航路係が各クラスで説明し、その視点をもとに「岡山県第5次廃棄物処理計画」を読み感想・意見をGoogle スプレッドシートに記入した。未来航路係は、11月24日の講演会の後、講師の鷺見香織さんから御指導いただき、自分たちが何を伝えるべきか実践を通して学び、各クラスで級友に講義した。



当日の授業の様子
(KSB による取材)



(Google スプレッドシートに記入)

1組 岡山県第5次廃棄物処理計画(素案)を読んで			
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ 最終編集:数秒前			
A6 ③他の人と異なる視点でコメントできたか			
A	B	C	D
1	岡山県第5次廃棄物処理計画(素案)を読んで		
2	素案を読んで、自分が気になった点、改善した方がいい点について記入		
3			
4	①「よりよい社会の実現」に向けた自分なりの考えをコメントができたか		
5	②「wants/need/human rights」の視点、SDGsの視点で素案に対するコメントができたか		
6	③他の人と異なる視点でコメントできたか		
7	★★★★ ①②③すべてあてはまる		
8	★★★ ①～③のうち2つあてはまる		
9	★ ①～③のうち1つあてはまる (どれがあてはまったか記入)		
10			
13	1組	1	
14		2	p33に地域の実情に応じた排出目標の設定とあるが身近なゴミを例に出してどの程度の排出量になっているのかをわかりやすくしたほうが良いのではないか 理由・何kgの排出量にしましょうなど重量を言われただけではイメージが付きづらく、また现阶段で個人でどれだけの量のゴミを排出しているのかを知りことも大切だと思うから。
15		3	p77～78に「地域の木質バイオマス資源を活用する新たな産業の創出」とあるがこれがどの程度の年数、資金がかかる見込み7日を書いたほうが良いと思う。(理由) 木質バイオマス発電はかかるコストが高く、効率も他の発電方法と比べると良くない。長い期間で多くの資金が使われるのならその資金を他の取り組みに使ったほうがより高い成果を得られると考えられる。
			p18本県においても海ごみの問題に県下一丸となって対応していくため、令和2(2020)年4月、全市町村及び岡山県経済団体連絡協議会と共同して「おかもやま海ごみクリーンアップ宣言」を行うとともに、同年12月には、瀬戸内海でつながる広島県、香川県、愛媛県及び海洋関係事業に深く関わる公益財団法人日本財団と協定を締結し、関係者が連携・協力して対策を進めることとしていますとある。より具体的な対策、たとえば、包装を減らすなどの対策を講じたほうが良いのではないか。

(生徒の感想抜粋)

- ・パブリック・コメントを書くために必要なことは、他の人々の視点に立って、政策や原案について考え、自分の意見を持つことだと考えた。今まで講演会等でパブリック・コメントを学んでいくうちに自分にできるか不安だったが、今日班の人とした話し合いの過程こそが、パブリック・コメントに大切なことだと知って、少しハードルが下がった。
- ・欲しいものと必要なものは自分が思うままに書くことができたが、対象が「全ての人」になると、考えるのが難しくなった。点字ブロックのように、たとえ自分に必要ないもののだとしても、それを必要としている人の視点に立って考えることが大事だと思った。
- ・健常者のわたしたちがすべきことを考えなければならないことをはっきりと自覚できました。自分と周囲の人が皆できるかぎり満足できる社会を作るため、責任ある意見をもてるようにしたい。